

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：32605
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2018～2022
 課題番号：18K00080
 研究課題名（和文）スウェーデンモンゴルミッションの研究

研究課題名（英文）Swedish Study Mongolia Mission

研究代表者

都馬 バイカル（Toba, Baikal）

桜美林大学・リベラルアーツ学群・教授

研究者番号：00434457

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000 円

研究成果の概要（和文）：都馬はスウェーデンモンゴルミッションの宣教所設立、聖書翻訳と出版、遺跡と文献資料、宣教師の生涯とモンゴル信徒の運命、スウェーデンモンゴル日本ミッションの活動などについて、国内外で口頭発表し、論文を執筆した。宣教師J・エリクソンが撮った写真を整理し、解説をつけ出版した。小長谷はスウェーデンで発見された新たな映像資料を用いて、これまで不明であった写真の連続性や撮影地点などについて口頭発表し、その分析結果を加えて、論文を作成した。二木は、ラーションについて国内外で口頭発表した。長谷川（間瀬）は、スウェーデン王国の宣教師派遣の背景と実態及びフレドリック・フランソンとの関係について口頭で発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、20世紀のモンゴルの複雑な宗教事情・国際関係を解明し、モンゴル地域（主に中国内モンゴル自治区とモンゴル国）におけるスウェーデンモンゴルミッションの宣教活動を明確にした。現地調査で貴重な文献を収集した。特に当事者への聞き取り調査により、主要な証言を得ることができた。コロナ禍により、当事者たちは殆ど他界された。その意味で、聞き取り調査により得られた証言は貴重であった。コロナの影響で、2年延期された国際シンポジウムは、2022年11月桜美林大学で開催され、代表者、分担者、連帯研究者と海外の研究協力者ら7名による研究発表を行い、その研究成果を公開した。

研究成果の概要（英文）：Toba gave oral presentations and wrote papers both in Japan and abroad on the establishment of the mission of the Swedish-Mongolian Mission, translation and publication of the Bible, archaeological sites and documentary materials, the life of missionaries and the fate of Mongolian believers, and the activities of the Swedish-Mongolian Mission. Toba organized and published photographs taken by missionary J. Erickson with comments. Konagaya made an oral presentation on the continuity of photographs and shooting locations, which had been unknown until now, using new video materials discovered in Sweden. Futaki gave oral presentations about Larson both in Japan and overseas. Mase-Hasegawa gave an oral presentation on the background and actual situation of missionary dispatch by the Kingdom of Sweden and its relationship with Fredrik Franson.

研究分野：宗教学

キーワード：宣教師 聖書 モンゴル スウェーデン J・エリクソン ミッション 宗教多元主義 蒙疆

1. 研究開始当初の背景

スウェーデンモンゴルミッション(以下、SMM という) は、19 世紀末～20 世紀半ばにかけて、モンゴル地域で、医療活動と社会福祉活動及び文化教育活動をしながら宣教活動を行っていた。

1924 年に外モンゴルが社会主義国家となり、スウェーデン宣教師は追放され、診療所や学校が閉鎖、宣教活動は僅か 5 年で終わった。一方、内モンゴルでの宣教活動は、1897 年から 1949 年まで続けられた。社会主義体制が確立されると、宗教信仰が制限され、排除・弾圧をうけた。特にキリスト教宣教師は、「欧米列強のモンゴルにおける植民地化の先遣隊である」と批判された。このような半世紀以上の厳しい政治環境の中で、内外モンゴルにおけるキリスト教に関する研究は皆無である。1990 年以後、民主化されたモンゴル国に学問自由の時代が到来したが、モンゴル国での SMM についての研究は進んでいない。宣教活動の中心地となっていた内モンゴルでも同様であり、いまだに未開拓の分野であった。

2. 研究の目的

本研究では宗教学・歴史学及び国際政治・文化人類学の観点から、SMM の設立背景と経緯、活動などの諸問題を明らかにすることを目的とした。

(1) 20 世紀モンゴル地域のキリスト教事情、即ち教会の諸活動を明らかにする。

(2) 20 世紀 SMM に関連する国際関係(スウェーデン、アメリカ、イギリス、清朝、中華民国、日本、ロシア等)を解明する。

(3) 現在のモンゴル地域のキリスト教と SMM との関連性を解明する。SMM の活動が後世に与えた影響、特に現在のモンゴル地域で宣教活動を行うミッションとの関連性について解明する。

3. 研究の方法

研究方法として、以下のように研究を進めることとした。

(1) 文献解読を行い、SMM の設立背景と経緯、及び変容を明らかにする。

(2) 現地調査により、教会の遺跡を確定し、碑文を解読する。

(3) 当事者にインタビューし、当時の宣教実態を把握する。

(4) SMM のモンゴル語出版物を収集し、目録を作成する。

(5) 国際シンポジウムを開催し、研究成果を公開する。

4. 研究成果

研究計画に従い、以下の成果をおさめた。

(1) 20 世紀モンゴル地域のキリスト教事情、即ち教会の諸活動について
都馬バイカルは、文献資料と写真資料を活用しながら『スウェーデン宣教師が写した失われたモンゴル』(単著)を著し、SMM の設立背景と宣教の実態、20 世紀前半期のモンゴル社会の事情等に関する研究成果を公表した。また、SMM のモンゴル語刊行・出版物を収集し、目録を作成した。

小長谷有紀は、宣教師 J・エリクソン(J.Eriksson: 1890-1987)の撮影した写真の資料的な価値について検証した。

(2) 20 世紀 SMM に関連する国際関係について

長谷川(間瀬)恵美は、米国の「同盟宣教団」(アライアンスミッション)の創立者であるフレドリック・フランソン(F.Franson: 1852-1908)の活動を研究し、モンゴルとの関係を明らかにした。

二木博史は、アメリカ「同盟宣教団」がモンゴルに派遣した最初の宣教師であるラーション(F. A. Larson: 1870-1957)について研究をおこない、モンゴルにおけるラーションの宣教活動と政治活動及びビジネス活動の特徴と意義を分析にした。

Batsaikhan Ookhnoi は、モンゴル国外交文書館に所蔵されている書簡資料を利用し、1924 年、ソビエト政府の直接指示により、SMM の外モンゴルにおける慈善活動と医療活動が停止されたことを明らかにした。その後、SMM の没収された財産についてモンゴル国とソ連との交渉について考察した。

都馬バイカルは、中華人民共和国が、1950 年から外国人宣教師の宣教活動を禁止したことにより、SMM の宣教師たちが日本に来て東京都と北海道等で 14 以上の教会を設立したことを明らかにした。

(3) 現在のモンゴル地域のキリスト教と SMM との関連性について

滝澤克彦は、『聖書とモンゴル-翻訳文化論の新たな地平へ』(芝山豊/滝澤克彦/都馬バイ

カル／荒井幸康共編著)を著し、1952年香港で出版された『新約聖書』の『聖書』翻訳史における位置とモンゴル国における現代語訳に与えた影響を明らかにした。

都馬バイカルは、1982年、SMJM(スウェーデンモンゴル日本ミッション)とSCM(スウェーデン中国ミッション)が統合された後、モンゴル国において宣教活動を再開し、宣教師を育成し、モンゴル国の各アイマグ(省)と中国のモンゴル地域に派遣していることを確認できた。また、SMJMの新生組織である「日本同盟基督教団」が、2007年からモンゴル国に宣教師を派遣し、交流をいまもつづけていることを明らかにした。

(4) 国際シンポジウムの開催

国際シンポジウム「スウェーデンモンゴルミッション研究」(International Symposium “Swedish Mongolian Mission Research”)を、2022年11月12日、桜美林大学新宿キャンパスで開催した。このシンポジウムにおいて、各国の研究者と討論を行い、学術情報を共有しながら、研究成果を公開した。

シンポジウムの第1セッションにおいては、Håkan Wahlquist(スウェーデン国立博物館研究員、スウェン・ヘディン財団理事長)が「スウェーデンモンゴルミッションの活動に関する映像記録」、Batsaikhan Ookhnoiが「スウェーデンモンゴルミッションに関するロシア語文献について」(オンライン参加)、二木博史が「モンゴルにおける宣教師ラーションの活動」、Saruul-Erdene Myagmar(アメリカ合衆国議会図書館研究員)が「1837年のMasi sayin belegと1952年『新約聖書』の比較の研究」の発表、第2セッションにおいては、小長谷有紀が「宣教師が撮ったモンゴル民俗写真の価値」、滝澤克彦が「スウェーデンモンゴルミッションと聖書翻訳—1952年香港版モンゴル語聖書の特徴と歴史的意義—」、長谷川(間瀬)恵美が「スウェーデン王国の宣教師派遣の背景と実態—フレドリック・フランソンについての考察—」、都馬バイカルが「スウェーデンモンゴルミッションのモンゴル人信徒の手紙について」の発表、第3セッションと総合討論においては、発表者全員と、各セッションの司会につとめたメンセンディーク ジェフリー(桜美林大学准教授・牧師)、窪田新一(日本モンゴル協会理事長)、奥野克己(立教大学教授)が参加し、本研究の成果を確認しながら、今後の課題と展望について討論を行った。

いずれも今回の研究は、新しい分野への挑戦的な研究で、資料が新たに発掘されただけでなく、その研究成果も、宗教、歴史、民俗学の分野に明確な一歩を踏み出したと評価された。新型コロナウイルス感染症により、この国際シンポジウムに参加することができなかったStaffan Rosén(スウェーデン王立アカデミー会員、ウプサラ大学教授)の「J・エリクソンの思い出」という文章と貴重な資料を、総合討論で紹介した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 都馬バイカル	4. 巻 0
2. 論文標題 マンダホ・モンゴルとハンギン・ゴンブジャブ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ハンギン・ゴンブジャブ	6. 最初と最後の頁 62-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 小長谷有紀	4. 巻 110
2. 論文標題 Street Dogs in Mongolia Captured by the Pictures in Travelogues from the Late 19th and Early 20th Centuries: A Case Study of Finding Logic in the Photographs	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 61-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小長谷有紀	4. 巻 0
2. 論文標題 序章 木へのまなざし	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 モンゴルにおける木材利用と森林後退－19世紀末から20世紀前篇の写真より	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 長谷川（間瀬）恵美	4. 巻 34
2. 論文標題 心あたかな医療によせて 終末期における＜魂＞への配慮、音楽死生学と緩和ケア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 48-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 都馬バイカル	4. 巻 1
2. 論文標題 チャハル盟立モンゴル青年学校と『読解教科書』について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近代内モンゴルにおけるモンゴル語出版物の歴史：出版社と知識人を中心に	6. 最初と最後の頁 37-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小長谷有紀	4. 巻 45(3)
2. 論文標題 モンゴルで撮影された写真の歴史(1880-1930)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 517-567
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15021/00009643	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二木博史	4. 巻 1
2. 論文標題 蒙疆政権議長府の出版物	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近代内モンゴルにおけるモンゴル語出版物の歴史：出版社と知識人を中心に	6. 最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二木博史	4. 巻 141
2. 論文標題 蒙疆政権発行の行政区画地図 蒙疆政権発行のための基礎資料	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本とモンゴル	6. 最初と最後の頁 148-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二木博史	4. 巻 5
2. 論文標題 1930年代に日本の軍部が刊行したハルハ河地域の地図について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 モンゴルと東北アジア研究	6. 最初と最後の頁 19-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二木博史	4. 巻 6
2. 論文標題 日本の軍用地図にえがかれたチンギス・ハーンの長城 チチハル協定(1911年)と満州国・ソ連国境	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 モンゴルと東北アジア研究	6. 最初と最後の頁 179-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川(間瀬) 恵美	4. 巻 1
2. 論文標題 遠藤周作と宗教多元主義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『深い河作品集』サニー出版	6. 最初と最後の頁 231-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 都馬 バイカル	4. 巻 1
2. 論文標題 モンゴルにおけるスウェーデンの宣教所	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 20世紀のモンゴル世界	6. 最初と最後の頁 28 - 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 小長谷有紀	4. 巻 73-3
2. 論文標題 「モンゴルにおけるウマと人」73-3:244-250	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生物の科学 遺伝	6. 最初と最後の頁 244-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 小長谷有紀	4. 巻 29-1
2. 論文標題 「モンゴルにおける宿营地集団の研究—A.D.Simukovの「モンゴル人民共和国の住民の遊牧生活に関する資料 (第二部) 論文の紹介」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 沙漠研究	6. 最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川 (間瀬) 恵美	4. 巻 1
2. 論文標題 『キリシタン受容史 教えと信仰と実践の諸相』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『本のひろば』教文館	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 二木 博史	4. 巻 54
2. 論文標題 チャハル地方調査報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本とモンゴル	6. 最初と最後の頁 199-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 都馬バイカル	4. 巻 53巻2号
2. 論文標題 スウェーデンのモンゴルミッションについて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本とモンゴル	6. 最初と最後の頁 53-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷川 (間瀬) 恵美	4. 巻 31
2. 論文標題 宗教学 (宗教多元主義) の立場から考える Quality of Death	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川 (間瀬) 恵美	4. 巻 40巻2号
2. 論文標題 Quality of Death を考える 宗教学 (宗教多元主義) の立場から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本老年社会学	6. 最初と最後の頁 139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件 (うち招待講演 18件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 スウェーデン宣教師が見たチャハル地域のモンゴル — スウェーデン児童文学作家ウルフ・ニルソン (Ulf Nilsson) の源流及び『長い灰色の歯』について—
3. 学会等名 日本モンゴル文学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 1937年頃のモンゴル社会実像 スウェーデン宣教師が撮った写真から
3. 学会等名 昭和12年学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 モンゴル人仏教徒の改宗ーエンヘビリグとキリスト教
3. 学会等名 モンゴル宗教文化研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 モンゴル人キリスト教信者エンヘビリグとその墓碑を巡って
3. 学会等名 日本モンゴル文学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 宣教師J・エリクソンがみたモンゴルの仏教事情
3. 学会等名 大正大学モンゴル仏典研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 二木博史
2. 発表標題 日本の軍用地図にえがかれたチンギス・ハーンの長城
3. 学会等名 第13回ウランバートル国際シンポジウム「チンギス・ハーンの長城 - 歴史、現状と遺産」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長谷川（間瀬）恵美
2. 発表標題 魂(いのち)のケア：音楽死生学に学ぶ
3. 学会等名 いのち教育研究会（科学研究費基盤研究C）第5回定例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川（間瀬）恵美
2. 発表標題 ターミナル・ケアにおける音楽と祈り
3. 学会等名 ロータリークラブ神奈川湘南クラブ定例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 J・エリクソンの目に映った内モンゴルの社会危機ーサイチンガの作品における「病氣」を中心として
3. 学会等名 中国内モンゴル師範大学モンゴル学院、日本モンゴル文学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝澤克彦、都馬バイカル
2. 発表標題 Digitization and analysis of the Joel Eriksson Collection
3. 学会等名 3rd project-based workshop 2019 "Analyzing the Historic Photographs of Mongolia" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 サイチンガの作品におけるモンゴル社会—スウェーデン宣教師エリクソンの写真との比較
3. 学会等名 日本モンゴル協会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 スウェーデンの「モンゴルミッション」と「モンゴルジャパンミッション」について
3. 学会等名 モンゴル文化教育大学・桜美林大学共催国際シンポジウム「モンゴルと日本 過去・現在・未来」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 サイチンガの作品におけるチンギス・ハーン 歴史散文「六般山」を中心として
3. 学会等名 内モンゴル民族大学、内モンゴル自治区作家協会、ナイマン旗人民政府共催 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷川(間瀬) 恵美
2. 発表標題 「MEMENTO MORI 旅立ちの準備」
3. 学会等名 慶応大学宗教研究会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷川(間瀬) 恵美
2. 発表標題 他者に対する寛容なところを
3. 学会等名 NHK「宗教の時間」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷川(間瀬) 恵美
2. 発表標題 Music Thanatology for Palliative Care
3. 学会等名 Bereavement Network of Hawaii, Annual Meeting(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 宣教師のカメラにうつったモンゴル
3. 学会等名 国際モンゴル学会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 スウェーデンモンゴルミッションに関する研究の現状と課題
3. 学会等名 スウェーデン王国東亜福音会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 スウェーデンモンゴルミッションの文化活動－Joel エリクソンの撮った写真を中心として
3. 学会等名 モンゴル文化教育大学創立25周年記念国際シンポジウム「モンゴル近代史・人文教育・都市計画と環境問題」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 宣教師の目に映った20世紀初頭のモンゴル Joel Erkssoonが撮った写真を中心として
3. 学会等名 モンゴル国立大学と日本秋田国際大学共催国際シンポジウム「20世紀初頭のモンゴルの歴史と文化」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 サイチンガの文学作品における「旧社会」とエリクソンの写真にうつったモンゴル
3. 学会等名 サイチンガ生誕105周年記念学術座談会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小長谷 有紀
2. 発表標題 地域像・歴史像の再構築－スウェーデン・ミッシヨナリーの写真を用いて－
3. 学会等名 国立民族学博物館 国際シンポジウム「歴史のロジックと構想力」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小長谷有紀
2. 発表標題 写真から見たモンゴル高原南辺における農業開発
3. 学会等名 国際日本文化研究センター 国際シンポジウム「北東アジアにおける近代空間の成立」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長谷川(間瀬) 恵美
2. 発表標題 「Quality of Deathを考える 宗教学(宗教多元主義)の立場から」
3. 学会等名 日本老年社会科学学会第60回大会・シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長谷川(間瀬) 恵美
2. 発表標題 『長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産』世界文化遺産登録に因んで」
3. 学会等名 宗教間対話研究所第124回研究会(招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 都馬バイカル	4. 発行年 2021年
2. 出版社 内モンゴル人民出版社	5. 総ページ数 205
3. 書名 ハンギン・ゴンブジャブ	

1. 著者名 都馬バイカル	4. 発行年 2021年
2. 出版社 桜美林大学出版会	5. 総ページ数 288
3. 書名 スウェーデン宣教師が写した失われたモンゴル	

1. 著者名 芝山豊、滝澤克彦、都馬バイカル、荒井幸康	4. 発行年 2021年
2. 出版社 教文館	5. 総ページ数 330
3. 書名 聖書とモンゴル	

1. 著者名 広川佐保、二木博史、都馬バイカル、フフバートル	4. 発行年 2021年
2. 出版社 成文社	5. 総ページ数 98
3. 書名 近代内モンゴルにおけるモンゴル語出版物の歴史ー出版社と知識人を中心に	

1. 著者名 都馬バイカル	4. 発行年 2018年
2. 出版社 論創社	5. 総ページ数 263
3. 書名 サイチング研究-内モンゴル現代文学の礎を築いた詩人・教育者・翻訳家	

1. 著者名 長谷川(間瀬)恵美	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 289
3. 書名 深い河の流れ - 宗教多元主義への道	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小長谷 有紀 (KONAGAYA Yuki) (30188750)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・客員教員 (64401)	
研究分担者	二木 博史 (FUTAKI Hiroshi) (90219072)	東京外国語大学・その他部局等・名誉教授 (12603)	
研究分担者	長谷川・間瀬 恵美 (MASE-HASEGAWA Emi) (90614115)	桜美林大学・リベラルアーツ学群・准教授 (32605)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	滝澤 克彦 (TAKIZAWA Katsuhiko) (80516691)	長崎大学・多文化社会学部・教授 (17301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 国際シンポジウム「スウェーデンモンゴルミッション研究」	開催年 2022年～2022年
---------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
スウェーデン	ウプサラ大学	国立民族誌博物館		
米国	国会図書館			
モンゴル	モンゴル科学アカデミー			